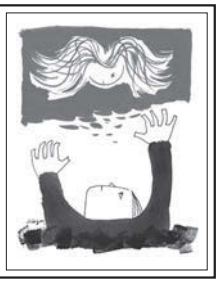
戦争と平和の資料館
ピースあいちニュース
第41号
2022年12月15日発行
〒465-0091
愛知県名古屋市名東区
よもぎ台2丁目820
電話・FAX 052-602-4222
発行:戦争と平和の資料館ピースあいち　http://peace-aichi.com/　【定価:30円】

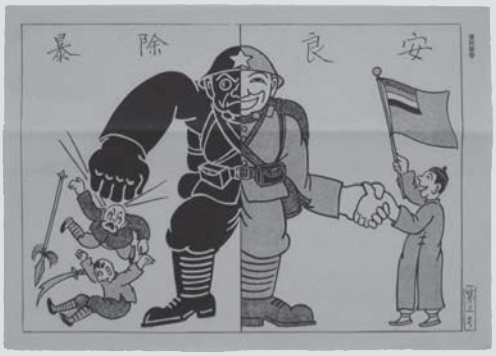


開催中　第10回寄贈品展「つなげていこう平和への願い」

2022年12月6日（火）～2023年2月25日（土）
〈会期中12月24日（土）－1月4日（水）は休館〉

皆さまに支えられて、ピースあいち寄贈品展は、10回目を迎えました。開館以来ご寄贈いただいた戦争と平和にかかわる資料は、3000点を超えました。本展では、新たに26名の方々から寄贈された資料367点を展示公開しています。

今回は、ガダルカナル島の戦い、レイテ沖海戦など南方に出征した兵士6名、中国大陸に出征した兵士3名の資料が並び、多くの若い命が失われたことを伝えています。海軍工機学校、陸軍幼年学校、陸軍工兵学校などの軍学校で養成教育を受け、各々が機関兵、衛生兵、憲兵として任務に従事した様子が手記などに克明に書かれています。また、満州開教使に任命されて満州（現・中国東北部）に渡った僧侶の満州における布教活動の貴重な資料も展示されています。



安良除暴チラシ
満州における日本軍のふるまいを皮肉ったもの。

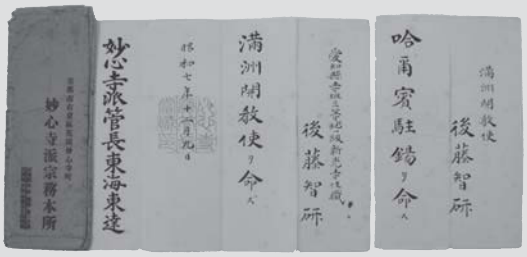
提灯
出征兵士の見送りに使用した。直径45cm、高さ50cmのかなり大きいもの。

陶製の文鎮
名古屋市立第三高等女学校の卒業記念品。鉄不足のための代用品。

絵葉書
約900枚の絵葉書の中から2枚を紹介。関東大震災の被災の様子を写した絵葉書と検閲済の印が押された家族に宛てた絵葉書。

名古屋空襲で犠牲となった名古屋市立第三高等女学校の女学生の日記や在校生から卒業の記念品として贈られた陶製の文鎮。岐阜県恵那郡へ学童疎開した千種国民学校6年生の手紙と5年生の日記。戦争プロパガンダとして作成されたポスターや紙芝居、紙風船やマッチ箱。

大人から子どもまで戦時色一色に染められ、常に死と隣り合わせの時代を生きた証し、寄贈品に込められた思いを会場でご覧いただき、平和への願いを未来につなげてもらえたらと思います。



満州開教使任命状と哈爾賓駐錫命令状
満州に於ける布教活動の貴重な資料。駐錫は、僧侶が派遣され滞在すること。

◆関連イベント◆

トーク・トーク 遺品と向き合うということ

- 2023年1月28日（土）13時30分～15時
- ピースあいち1階 交流のひろば
- 要事前電話申し込み 30席

ピースあいちの戦争を伝える取り組みを、遺されたものを手にしたそれぞれの関わりから語ります。

《出演者》

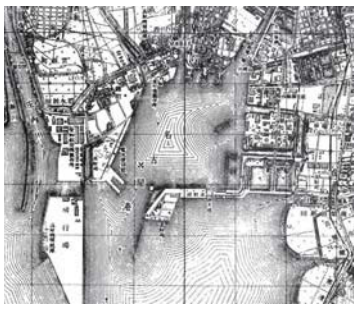
小澤美由紀さん（ピースあいち語り継ぎ手の会）
遺品と出会い語り継ぐ「17歳で戦死した大叔父の戦争」

広中一成さん（愛知学院大学准教授）
日中戦争研究者。小澤さんの遺品をいっしょに調べた。

ピースあいち資料班
寄贈品展を担当する経験などから。

予告　「地図と写真で見る名古屋と戦争（仮）」展

2023年3月7日（火）～5月6日（土）



報告　ピースあいち子ども企画展『戦争の中の子どもたち』『戦争と動物たち』

10月4日（火）～11月26日（土）

今年の子ども企画展は、戦中戦後の食生活について特集しました。

この時代は、いわば「腹ぺこ時代」です。今、80歳を過ぎた人から聞くと、あの頃はとにかく毎日が空腹だったと言います。空腹をしのぐため、人々はいろいろと知恵を絞りました。米や味噌、砂糖などの食糧品、衣類などの生活必需品が配給制になったのはその一例です。「欲しがりません　勝つまでは」という標語もできました。戦争遂行のためには、とにかく我慢の連続だったのです。

子どもたちは、学校の運動場を耕して芋や野菜を植え、芋のつる、野草のよもぎ、スベリヒユやイナゴ、蛙を食べたといいます。疎開した学童のなかには「小学校3年生の男子がお腹をすかせて、生の銀杏を食べて死んだ」と話をする人もいます。

戦争が終わった後も、しばらくは「腹ぺこ時代」が続きました。「戦時中よりむしろ戦後しばらくの方が大変だった」という人は少なくありません。事実、米の配給量は1941年～1945年8月までは成人1人あたり一日約345グラムでしたが、1945年8月～1946年頃までは成人1人あたり一日330グラムだったといいます。

今は飽食の時代ですが、いつまた食糧難がやってこないとも限りません。二度と戦争を起こさないため、私たちに何ができるか、この企画展が考えるきっかけになることを願っています。

●来館者のアンケートから

戦時下の子どもたちの様子が写真や展示品から伝わってきて、もっと知っていきたいと思いました。

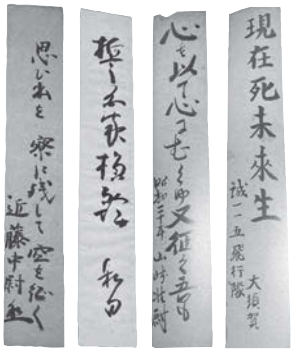
疎開中の小学生の子どもの写真や、給食はさつま芋のつるを一人4本食べていたという話を聞いて、涙がとまらなかった。戦争は反対と声をあげたいです。

一番印象に残ったのは、学校での訓練やくつみがきなどの子どもについての資料です。自分たちと同じくらいの年齢にもかかわらず、国のために必死に訓練したり、生きるためにいろいろなことをしていたのが印象的でした。

開催中　「特攻兵士が残した辞世の句」

10月11日（火）～12月23日（金）　プチギャラリー

明野陸軍飛行学校（現在の三重県伊勢市）で、訓練課程を終えた特攻隊兵士が出撃する前に心情を残した辞世の句。当時、ご両親が「攻空寮（せくうりょう）」という特攻隊員専用の寮を経営していた岡出とよ子さんからご寄贈いただいた34首（複製）です。



外壁のシンボル画がきれいになりました！

9月18日（日）～26日（月）の夏季休館中に、屋根や外壁の補修工事を行いました。画家の丹羽和子さん（故人）が描いてくださったピースあいちのシンボル画も、すっかりきれいになりました。

報告　企画展「戦争プロパガンダ～国民を戦争に向かわせた宣伝たち」

7月12日（火）～9月17日（土）

大好評でした!

「展示会場では、その雰囲気に吸い込まれそうになった」と大学生。「こんな雰囲気の中で、私は軍国少女になっていったのよ」と、ピースあいち語り手さん。

3階展示室に所狭しと並べられた戦時下のポスター、標語、雑誌、湯飲みや茶碗、おもちゃ、そしてふろしきや駅弁の掛け紙…。2階のプチギャラリーでは、アメリカ軍が戦地や日本国内に撒いた「プロパガンダ・リーフレット（伝単）」を展示しました。

今年の夏の企画展は、日本におけるかつてのプロパガンダを再現し、あふれんばかりの戦争宣伝とそれを受け入れた国民の姿を観てもらうというものでした。コロナ禍ではありましたが、1700人にご来館いただきました。

昨年の秋、長野県阿智村を訪問し、残された135枚の戦時ポスターを見学。その後、駅弁の掛け紙を提供いただいた蛸島直さん、ふろしき研究会の半田博子さんの協力をいただき、月1回の会議を行って準備を進めてきました。

満州の地図を描いた図柄に開拓団名や産物の石高が書かれたふろしきは「新天地」への夢を表している、有名な函館の駅弁「いかめし」は1939年12月の「戦時節米報国運動」の中で考案されたなど、展示物の選定を進める中で多くのことを学び合いました。

当初は、「戦争プロパガンダ」というタイトルで果たして多くの方に来ていただけるのかと議論しながらでしたが、2月にロシアのウクライナ侵攻が始まると、「プロパガンダ」という言葉がニュースなどで盛んに使われるようになり、「プロパガンダって何だ！」と多くのみなさんに関心をもって来ていただけたように思います。「ウクライナで起こっていることを少しでも知りたくて」と、高校生や大学生など若い方の来館も目立ちました。

今回は館内Wi-Fiを活用した「駅弁掛け紙の解説」「戦時ふろしきの数々」「紙芝居・母さんは部隊長」の動画配信を行いました。

▌参加人数を制限しながら3つのイベントを開催▌

①講演会「プロパガンダポスターに見る日本の戦争」
7月23日（土）

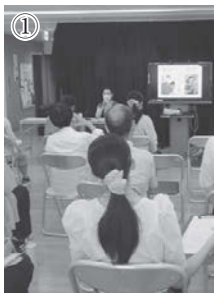
「ポスターは当時の宣伝媒体として最大サイズで、色彩が豊かということもあり、視覚的に訴える紙媒体メディアの中心だった」と、講演者の田島奈都子さん（青梅市立美術館学芸員）。

②蓄音機で聴く軍歌・戦時歌謡（解説付き）　7月30日（土）

庶民に親しまれた歌の中から、「露営の歌」、「愛国行進曲」、「誰か故郷を想はざる」、「隣組」、「お山の杉の子」など13曲を蓄音機『ヴィクター・ヴィクトローラW1-80』で聞きました。

③紙芝居から振り返る戦争のころ　8月20日（土）

「若櫻」「戦ひの子ら」2作の上演と、これらの紙芝居の作品意図やプロパガンダとしての紙芝居について解説。



報告

夏の戦争体験語りシリーズ2022

8月2日（火）～ 15日（月）
於：ピースあいち　オンライン

ピースあいちの語り手、語り継ぎ手のお話をボランティアが報告（要約）しました。

8月2日（火）「7歳の空襲体験」

澄谷 三八子さん 83歳
（語り手の会）

1945年5月17日の夜、母親は2歳の弟を背中に、当時7歳の私と5歳の弟の手を引き、11歳の兄と近くの熱田神宮へ向かった。内田橋は真ん中で落ちていたので、崖の下に降りて船に乗せてもらった。次から次へと焼夷弾が落ちて、火が迫って来るなか、なんとか向こう岸へ辿り着いたが、その先に行くことはできなかった。トボトボと堤防沿いに引き返すと、家は焼かれ辺り一面焼け野原。知らない人がくれた小さなお握りが嬉しくて、幼心に「こんな人が世の中にいるんだ」と思った。（橋爪 記）

8月3日（水）「勤労動員・空襲体験」

筧 久江さん 89歳
（語り手の会）

1944年に名古屋市立第三高等女学校に入学し、勤労動員先の三菱電機で戦闘機のライト部分の配電盤を作っていた。その軍需工場が爆撃されたため、名古屋市東区東片端にあった学校が工場になり、そこで働いていた。校庭に防空壕がつくられていたため、「安全」と感じた。一つの防空壕に50人以上の生徒が入っていた。1945年1月23日午後の空襲の時、防空壕に入っていると、突然「ドカーン」という音。外に出ると大穴ができていた。その空襲で1、2年生42名が亡くなった。（吉岡 記）

8月4日（木）「空襲・学童疎開体験」

佐藤 誠治さん 87歳
（語り手の会）

国民学校5年生の時に、浜松市八幡町から8キロ離れた母親の実家の積志町へ縁故疎開した。防空頭巾をかぶって登校し、校庭でさつまいもを作った。B29の焼夷弾攻撃はすさまじく、火が花火のように降ってきた。木造建築は全部焼けてしまった。空襲警報が鳴ると、家の床の下に掘った防空壕に入った。火傷をした人の腕の皮がむけた真っ白い肌を、今でも忘れられない。1945年8月15日に天皇陛下のお言葉があり、「戦争が終わった」と心の底から喜んだ。戦争はダメです。平和は良いものですね。（小田 記）

8月5日（金）「空襲・疎開体験」

小笠原 淳子さん 88歳
（語り手の会）

1944年、6年生だった私は8月に集団疎開をした。勤労動員で生徒がいなくなった女学校の校舎が生活の場。とにかくひもじかった。持って行ったお手玉の豆を取り出し空き缶で炒って食べたり、煉り歯磨きを舐めたり。生の銀杏を食べて下級生が亡くなった。45年3月、国民学校卒業のため、大喜びで神戸の家に帰った。全国の6年生が疎開から帰るのを狙ったように、東京、名古屋、大阪、神戸など大都市に焼夷弾が降り注いだ。終戦時は、「ああ、もう空襲がないんだ」と、ほっとした。（林 記）

8月6日（土）「私のヒロシマ」

佐々木 陽子さん
（語り継ぎ手の会）

佐々木さんは広島出身で、平和教育を受けてきた。当時、国民学校の校長だった父方の祖父は、学校に運ばれる負傷者の対応に追われた。軍医だった母方の祖父は救護活動のさなか倒れ、8月30日、祖母に見守られながら亡くなった。穏やかな印象だった祖母が残した手帳には、祖父が倒れてから亡くなるまでの様子や祖母の悲痛な想いが綴られていた。『安らかに眠って下さい　過ちは繰り返しませぬから』。この思いを全ての方々に伝えていきたいと、佐々木さんはお話しを締めくくった。（辻井 記）

8月9日（火）**「きのこ雲の下で起こったこと――家族の長崎被爆体験」**

中上 寧さん（語り継ぎ手の会）

叔母の話:原爆の爆風は強烈で体がフワッと浮いた感じになった。気づくと全て破壊されて文字通り焼け野原になっていた。／祖母の話:勤務地の高島から長崎まで40cmも積もった瓦礫の上を歩いて家へ向かった。途中でおびただしい数の黒焦げ死体を見た。祖父、伯母、母が家族を探しに出かけ全員が入市被爆した。／叔父の話:体に刺さっていたガラス片が何年か後に体表にプツプツと出てきた。／祖父の話:黒い雨は長崎にも降った。／中上さん:「政治に関心を持ってほしい」。（桑原 記）

8月10日（水）**「学童疎開」**

木下 信三さん 86歳（語り手の会）

千種国民学校5年生の時に岐阜県恵那郡田瀬に集団疎開し、公民館で生活した。大広間にムシロを敷いて、80人程の児童が同じ空間で生活した。食べ物がなくいつも空腹だった。雑炊には家畜の飼料の豆かすが入っていた。ノミやシラミ、南京虫にも悩まされた。みんなホームシックになり、電車を見て泣いている子もいた。7か月間の疎開生活で両親と面会できたのは1度だけ。3年生の妹も一緒だったが何もしてやれず、体が弱いところに栄養失調が重なり、終戦後の8月末に亡くなった。（中西 記）

8月11日（木）**「名古屋空襲体験」**

森下 規矩夫さん 83歳（語り手の会）

今のバンテリンドームの近くで生まれたが、航空機産業の拠点・三菱重工業があり、ひときわ空襲が激しかった。B29は美しく焼夷弾は花火のようにキレイだった。が、私の家も焼け、名古屋のまちは焼け野原となった。生活物資は配給制となり、それも十分届くことはなかった。特に食料のないことはつらかった。戦争は何も生み出さない。憎しみと虚しさだけが残る。今の世の中、軍備増強や憲法改正など戦争に向かっているのではないか。今こそ日本の民主主義の成熟度が問われている。（長谷川 記）

8月12日（金）**「勤労動員・空襲体験」**

望月 菊枝さん 91歳（語り手の会）

女学校2年生の時、三菱の工場で仕事をするようになった。空襲が激しくなったので学校に工場ができ、そこで仕事をしていた。運動場に防空壕があった。1月23日、3回目の空襲警報と同時に大音響があがり、防空壕が崩れ42名が爆死した。遺体は夜中にそれぞれの家に運ばれた。死者のことを世間に知らせない軍の命令だった。朝、元気に送り出した我が子が夕に無残な姿で戻ってくる。こんな理不尽なことが起こるのが戦争。今ある平和をかみしめ、平和を祈念する。平和は宝です。（臼井 記）

8月13日（土）**「従軍看護婦の戦争体験」**

岡田 彩花さん（語り継ぎ手の会）

従軍看護婦だった杉本初枝さんの手記や話をもとに、杉本さんの横須賀海軍病院などでの経験を紹介した。病院には多くの患者が運ばれてきて、熱を出した患者のため徹夜で氷を運び治療したこともあった。岡田さんは、「戦争は、杉本さんたちの人を救いたいという純粋な気持ちを歪んだ形で利用したのだと思う。語り継ぎは、戦争や平和に関わる方法の一つ。体験者の経験を知り、伝えることが平和につながっていく。縦だけでなく横に伝えることが語り継ぎの本意です」と話された。（宝蔵寺 記）

8月15日（月）**「斎藤孝さんの戦争」**

近藤 世津子さん（語り継ぎ手の会）

1944年、斎藤孝さんが中学2年になると英語の授業がなくなり、軍事教練の授業が始まった。9月からは軍需工場で爆撃機の生産に従事。翌年5月の空襲で自宅に焼夷弾が落ちた。5月半ばから清州飛行場に動員され、そこで終戦の日を迎えた。翌日、焼け跡で見た女学生はもんぺ姿ではなくセーラー服だった。スカートの白線が目にしみた。近藤さんは、「斎藤さんはいつもお話の最後に子どもたちに、『今日聞いたことを家族に話してほしい。それも平和活動だよ』と話されていた」と語った。（吉岡 記）

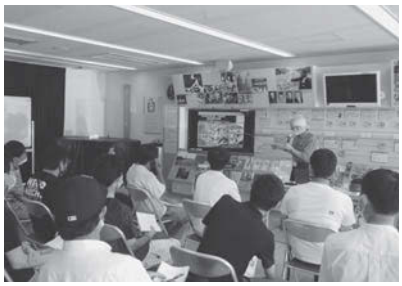
報告

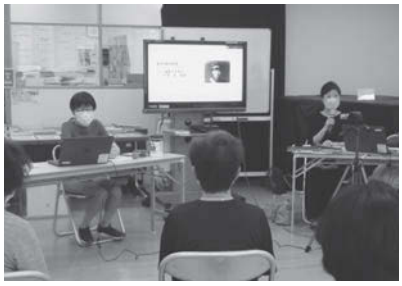
ピースあいちの戦争体験語り事業
「語り手の会」「語り継ぎ手の会（リボン）」の活動

「語り手の会」は年1回の総会と毎月の語り手支援事務局会議を開催、「語り継ぎ手の会」は毎月の事務局会議と2か月に一度例会を開き、語り継ぎの試演と会員の交流をしています。学校や団体からの要請に応え、語り継ぎ手の派遣も増えてきています。

7月から8月にかけてはピースあいちでの「戦争体験を聞くシリーズ」とあわせ、愛知・名古屋戦争に関する資料館で開催された「戦争体験を聴く会」（8月1日から20日の間に計8回）、愛知サマーセミナーや各地の「平和のつどい」などに語り手、語り継ぎ手を派遣しました。また、学童保育の子どもたちや大学のゼミ、団体で来ていただいたみなさんにも、戦争体験を聞いていただきました。

今年も愛知県と名古屋市平和学習支援事業を受託し、12月までに県下の小・中学校11校へ戦争体験の語り手・語り継ぎ手の派遣をします。





■館内で「戦争体験」を視聴できるようになりました。
2007年の開館当時からDVDに撮った戦争体験者のお話を編集し、館内のパソコンで視聴できるようになりました。現在15名のお話が聴いていただけます。ご来館の折にはぜひ視聴してください。

アンケートから

子どもが語り手さんの話を聞きに行くといったのですが、一緒についてきて良かったと思いました。「戦争」と一言で言うけれど、体験した方の心にはとても深いものがあるのだと思いました。お聴きした女学校のお話、特に「えいこちゃん」の話では、人の命が亡くなるということがこんなにも簡単に起こってしまうのだと衝撃を受けました。（40代女性）

体験を本で読んだことは何度もありましたが、生の語りとは全然違いました。体験をご本人の口から聞ける生々しさは本当に貴重でした。（30代）

愛知の空襲のお話を聞くのは初めてでした。アニメなどでしか知らなかったが、後ろから火がせまってきていて命からがら逃げたと聞いて、すごく怖かったです。その時の絵もわかりやすく、聞き入っていたらすごく時間が早く感じられました。（10代）

報告

2022年あいち･平和のための戦争展に参加しました。

8月11日（祝木）～14日（日）
於:市民ギャラリー矢田

県内の戦争の実態を掘り起こし、記録している団体や、戦争に反対する活動に取り組んでいる平和団体などがあつまり、毎年8月に展示やステージ企画を行っている「戦争展」。ピースあいちは「少女たちの戦争―青春の全てが戦争だった」のパネル展示を行いました。

授業「オーラル ヒストリー」に招かれました！

10月14日（金）

「オーラル ヒストリー」という授業の一環で、当館の語り手3名がクラーク記念国際高校に招かれました。満蒙開拓団、学童疎開、学徒動員の戦争体験を、いつもなら語り手が話すのに対し、生徒たちが疑問に思う点やその頃の情勢について語り手に質問するという形式でした。活発な問答が行われ、予定された一時間はあっという間に過ぎました。後日送られてくる生徒たちの報告が楽しみです。

シリーズ
平和を守る仲間たち⑮

東海市の戦争を記録する会

戦争体験者の聞き取りと三菱知多工場の調査を重点に活動

2020年2月4日（火）、「東海市の戦争を記録する会」は産声を上げました。まだ3年にも満たない若い発展途上（?）の団体です。戦後75年の節目の年に、平和を訴える体験記録集を出そうと比較的安易な気持ちでスタートしました。「夏に出したい」という夢も、コロナ禍で全く活動できませんでした。夏からようやくゆっくりと動き出しました。

当初は、体験集だけの予定でした。しかし、東海市教育委員会が緑陽公園予定地の太佐山高射砲陣地跡の発掘調査を行いました。6つの砲座の他に兵舎なども残り、全国的に貴重な戦争遺跡です。また、加木屋小学校の奉安殿を会員が発見しました。会員の家の近くに三菱航空機知多工場の知多飛行場第二滑走路の側溝が走っています。そこで第2部「東海市の空襲・戦争遺跡と戦時下の生活」も加え、冊子『明日へ―今、伝えたい　戦争のこと―』を出版しました。

2021年4月に出版しましたが、証言者の中ですでに4名の方が鬼籍に入られました。戦争体験者の貴重な証言を聞けるのはここ数年が勝負と聞き取りを重視しています。また、三菱知多工場には不明な点が多く、重点的に調査しています。空襲やその死者も新たに発見されました。

通信『明日へ』を年4回発行しています。私たちの活動を認知してもらい、活動を広めるためには、まず読んでもらうことが大切だと、市内の公民館や市民館、公共施設に置いています。お年寄りや子どもに優しいように、やや大きめの字にフリガナを付け、カラーで、手に取って読んでみたくなる紙面づくりを目指しています。　（代表　山田　修）

太佐山高射砲陣地 第2砲座（左上に人）

三菱知多飛行場（米軍空撮 1948.9.27）
（マッチ棒が第2、その右が第1滑走路）

冊子『明日へ―今、伝えたい戦争のこと』と
通信『明日へ』

ボランティアの窓

遅まきながら祖母の胸中に想いを馳せて

町田 延代

ボランティアとして一年。「銃後の母」という展示物やパネルがあるが、胸をよぎるのは父方の祖母（奈良県吉野郡）である。戦時中、長男は徴兵され外地へ。長女は開拓団、次男は青少年義勇軍に参加して満州へ、三男は勤労動員で名古屋へ駆り出された。外地にいた三人は帰国したが、三男は愛知時計への空襲で落命した。この程度しか他界した父（五男）から聞いていなかったのが悔やまれる。

展示物に触れる度に、当時の祖母の心中はいかばかりだったかと想いを馳せている。離れて暮らす我が子たちをどれほど心配し、無事を祈っていただろうかと。当時の苦労や悲痛な想いは測り知れないが、祖母のような母親が日本全国にどれほど多くいたのか、その存在を「戦争を知らない子どもたち」は心の隅に留めおくべきではないかと思う。

リハビリを継続して頑張る。ピースあいちのボランティアに障りの無いように。

野原 良和

秋も深まり木漏れ日の暖かさに安らぎ、朝夕の寒さに身も引き締まる今日この頃です。ピースあいちで多くの方にお世話になり15年が過ぎました。

中東で停戦が始まってもウクライナで理不尽な事態が発生し、残念いや悔しい。自分は癌の切除から10年が過ぎ、貧血症が顕著となり転倒防止に神経を使います。人は何歳になっても変わりうるものだと思っていたが老骨のヨタヘタになってしまい、要支援2認定を受け、1日のスケジュールを多くのメニューから本人が決めるデイサービスセンターと毎週火曜日の契約をしました。体力低下を防ぐため、強制的に体を動かします。最初に健康チェックをし、サーキットトレーニング、エアロバイク、ウオーターベッド、メドマーのマッサージを受けて清々する。さらに、健康体操、レッドコード、パワープレートとメニューを増やしていくつもりです。ピースあいちでのボランティア活動に障りの無いように、できるだけ頑張ってリハビリを継続します。

資料館探訪 33

Intrepid Sea, Air & Space Museum
イントレピッド海上航空宇宙博物館（アメリカ）

ニューヨークの中心街からハドソン川沿いに歩いていくといくつもの桟橋が連なっている。

その一つに、太平洋で対日戦に従軍したアメリカの正規空母イントレピッド（Max.41,434t）が係留されている。フライトデッキやハンガーデッキには朝鮮動乱からベトナム戦争まで使用されたロシア製の戦闘機ミグ、アメリカ製のトムキャットや爆撃機ファントムなど、20余機が並んでいて圧巻だ。

艦橋に入ることもできて、乗艦しているという臨場感も味わえる。イントレピッドは1943年就役、1944年トラック島攻撃中に日本機による雷撃でひどく損傷しハワイで補修。戦線復帰後にはフィリピンと沖縄の海域で神風の攻撃を受けたが被害は軽微。太平洋の島々への海兵隊上陸支援作戦に従事し、艦載機は戦艦武蔵と大和を撃沈している。1962年には宇宙飛行士が宇宙から帰還して海上に降下するときに母船として活躍し、1966年からは3度ベトナム戦争に参加した。1974年に退役し、1982年から現在まで今の場所で戦争博物館として歴史を語り継いでいる。（Y.M）

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン（無料）」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください！

「ピースあいち」では新たな会員を募集しています。健全な組織運営のために、あなたの力をお貸しください。

「ピースあいち」の年間支出は平均して1100万円程度です。対して収入は、基本的には3本柱で賄っております。一つは入館料収入です。展示会などにおいでの方々から大人300円、子ども100円をいただいております。二つ目は寄付金や助成金収入です。これは時に大きな助けになることもありますが、不確実です。そこで三つ目の年会費が一番の柱になっています。会費は正会員から年額6000円、賛助会員から同3000円です。2022年11月現在、正会員は353人、賛助会員は407人ですが、これを少しでも増やしたいと思っております。「ピースあいち」の活動に共鳴できる方なら、どなたでも結構です。電話、FAX052−602−4222にご一報下さい。クレジットカード、銀行振込でも入会、寄付をしていただけます。

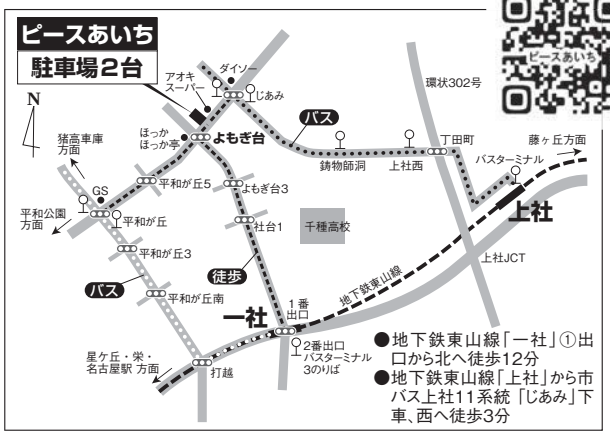
オンラインの**入会**はこちら

オンラインの**寄付**はこちら

【利用案内】

- ●開 館 日　火曜日～土曜日
- ●開館時間　午前11時～午後４時
- ●休 館 日　日曜日・月曜日
- ●冬期休館　12月24日（土）～1月4日（水）
- ●入 館 料　大人 300円 小中高生 100円
- ●常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下のくらし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- ●学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- ●駐車場は2台分あります（300円）。他に障がい者用が1台分あります（無料）。

■交通のご案内



●編集後記●

「ピースあいち」を訪ねてきた人が、玄関外壁のお化粧直し工事に気付いて「きれいになりましたね」と言ってくださいました。ありがとうございます。工事の概略は今号（41号）の2面に書いてある通りです。2007年のオープン以来、初のリニューアルでした。費用は約250万円でしたが、問題は遠くない将来、次の工事のための費用がまた必要になることです。会員を増やし、入館者を増やさないと「ピースあいち」の財政も苦しくなります。このページ（8面）には、そのための「お願い」の記事があります。ご一読ください。（ks）